産経新聞
令和4年(2022)日刊28356号
1|3[月]
産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
九州・山口版
発行所 ©産業経済新聞社2022
〒810－0004福岡県福岡市中央区渡辺通5-23-8
西部本部 福岡(092)741-7088
紙面 057
販売 092
購読 012

**朝の詩(うた)**

年賀状

東京都練馬区 深瀬 和雄 77

旧友から
久しぶりに届いた
ペン書きの年賀状
住所も仕事も
変わっているが
今も変わっていない

# 主権回復

# 牙むくウイルス 守りの戦い続く

## 第1部 2030への処方箋 2

## 感染症と人類 1万年

江戸時代、鎖国のころ。唯一、世界に開かれていた「窓」が長崎だ。海外で流行する感染症は長崎から国内に広がり、予防や治療法などの西洋医学もまた、ここから普及した。1857年に設置された医学伝習所の流れをくみ、感染症研究をリードしてきた長崎大に昨年夏、新たな実験棟が竣(しゅん)工した。

鉄筋コンクリート5階建て、そばにある教会「浦上天主堂」と調和する意匠だが、天主堂を象徴する優美な窓はない。

厳重な構造は安全性を担保するためだ。エボラウイルスなど感染力が強く致死性の高い病原体を扱う国内2カ所目の「バイオセーフティーレベル(BSL)4施設」として、本格稼働に向けた準備が進む。

「BSL4施設があればもっと貢献できたはずだ。トップを走れる位置にいたのに、世界との競争に負けた」

長崎大熱帯医学研究所所長の森田公一には苦い記憶がある。1998年にマレーシアで起きた新種のニパウイルス流行。病原性が高い可能性が指摘され、一時的に検体の取り扱いを中断せざるを得なかった。

研究が再開できたのは約1年後。このとき、森田らはBSL4施設の必要性を痛感した。当時、教授になったばかりだった森田は、この3月に定年を迎える。

「施設を使ってやりたい研究はあった」と口にした。

### 取り残された日本

長崎大によると、BSL4施設は2017年時点で日本を含め24カ国・地域に59施設以上ある。海外では1960年代に利用が始まったが、日本は取り残されていた。国立感染症研究所村山庁舎(東京都武蔵村山市)に1981年に整備された施設は住民の理解を得られず、未稼働の状態が続いた。2014年に起きた西アフリカでのエボラ出血熱流行を転機として、その翌年、ようやく稼働した。

「ワクチンや治療薬の効果も生のウイルスを扱えなければ確認できない」。長崎大教授でBSL4施設設置準備室長を務める安田二朗は強調する。

安全保障の観点からも代替機能となる拠点の整備は重要だ。森田は「災害で感染研の施設が使えなくなることも考えておかなければならない。患者発生時、迅速に検査を進めるために国内に4カ所程度あってもよいくらいだ」と指摘する。

感染研の施設は「感染者の生命を守るために必要な診断や治療などに関する業務」に特化した運用がなされているが、長崎大では基礎研究も可能だ。文部科学省は研究基盤の中核に位置付けており、全国の研究者に利用の門戸を開くことで人材育成に弾みがつく。

### 10年で根絶は無理

哺乳類や鳥類には推定約170万種のウイルスが存在し、このうち最大82万種がヒトに感染しうる―。日本など137カ国が参加する政府間組織「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)」が一昨年、報告書を公表した。

「人間が自然の一部である以上、ウイルスなどの病原体と共生し、付き合っていかざるを得ない。それは敗北でもなんでもない。自然の法則だ」

感染症が流行する世界各地で疫学研究の第一線に立ってきた長崎大教授の山本太郎は思いを強くする。

ウイルスが感染症という形で人類に影響を及ぼし始めたのは1万年以上前。だが直近の半世紀だけで、エボラ、エイズ、SARS、MERS、新型インフルエンザ、そして新型コロナウイルス感染症が確認され、出現頻度は上がっている。

英政府も昨年、外交・安全保障指針で「2030年に向け、感染症の発生はより頻繁になると考えられる」と指摘、「新たなパンデミック(世界的大流行)が起こる現実的な可能性が残っている」と警告した。

近年出現した感染症の宿主は多くが野生動物だ。これまで、人類が「根絶」できた感染症は天然痘だけ。ヒトにしか感染しないという特徴が根絶を可能にしたという指摘もある。

「新型コロナを10年で根絶するのはほぼ不可能だろう」。安田の見立てだ。そして、続ける。

「ウィズコロナという考え方は、ウイルス研究者としては敗北だと思っている。根絶が目標だが、困難であればできるだけ人的・社会的被害を減らす必要がある」

(敬称略)

3面に続く

### 人類は常に新たなウイルスの危機にさらされてきた

**過去のパンデミックはほぼ全て動物由来感染症**

自然界には170万種のウイルスが存在し、最大82万種に人への感染力がある

コウモリ
家畜(牛や豚)
水鳥

**2030年頃**

どこでもウイルス感染の有無を検知・判定できる超軽量センサーが実用化される見込み

※イメージ

| | 死者 |
|---|---|
| 2019~ 新型コロナウイルス感染症(COVID19) | 540万人 |
| 2014~ エボラ出血熱 | 1万1000人 |
| 2012~ MERS | 850人 |
| 2009 新型インフルエンザ | 最大57万5000人 |
| 2002 SARS | 770人 |
| 1981~ エイズ(HIV) | 3600万人 |
| 1968 香港インフルエンザ | 100万人 |
| 1957 アジアインフルエンザ | 110万人 |
| 1918 スペイン風邪 | 5000万人 |

←スペイン風邪とみられる患者が療養する米国の病院。1918年(ゲッティ=共同)

※WHO、米CDC、IPBESなどの資料・報告書から。死者は推計